



2011年12月26日

## Save the hope TAKATA みんなの意見書

岩手県知事 達増 拓也 様

私たちは、子どもまちづくりクラブ「絆～save the hope TAKATA～」です。6月から陸前高田市の復興のために活動してきました。岩手県の復興基本計画の素案を見て、私たちの意見をまとめました。

### ☆いいなと思ったところ

P11「ふるさと」で  
あり続けることが出  
来るような地域社会  
づくりを通じた復興  
の実現

・この案はとても気に入りました。岩手はみんなの「ふるさと」でありつづけてほしいです。「ふるさと」に来る気分でその場所に来てくれるような魅力的な所にしていきたいです。

P12災害に強い交通  
ネットワークの構築

・震災前はあまり人通りが多くなかった道路がありました。しかし震災後は人通りがなかったところも、今では通学路やスクールバスの停留所、仮設住宅へ行くための道として使われるようになりました。そして交差点に信号がなく、お年寄りや小さな子どもにとっても危ないです。なので、お年寄りや小さな子供が安心して利用できるように、暗い所に街灯をつけ、道路が狭い所などに歩道を作り、交差点に信号を作りたいです。

## ☆こうしてほしいなと思ったところ

### P15 ウ 産業の再生と活性化

・「もともとあまり盛んではない産業を元通りにして盛んにする」だと、確かに以前より少しは盛んになると思います。しかし、元通りではなく、もとよりさらに良くし、今まで以上に盛んにしてほしいです。

### P15 エ 「環境を守りながら暮らす」

・「自然環境に負担をかけない」では今までと同じだと思います。「共存」して、自然を利用していくところまで入れてほしいです。「共存」が「自然を守る」ことにつながるし、「森がないと生きていけない」ような関係性が必要だと考えました。例えば、植樹をすることで森を豊かにすることが出来るし、自然エネルギーを利用したエコタウンなどを作ることで「自然との共存」を意識することが出来ると思います。

### P11 コミュニティの回復・再生

・陸前高田市は今、点在している仮設住宅にみんなが移り住んでしまい、前まで住んでいた高田の町のつながりがなくなっていると思います。例として、以前は川原、荒町、駅前など七夕の時の地区でのつながりがあったのですが、今は様々な場所に移り住んでしまい、前のような強いつながりがなくなってしまったように感じます。今でも、まだ仮設は見知らぬ人ばかりで、つながりは作れていないのではないのでしょうか。なので、地域のつながりを再生するイベント等を企画してほしいです。

・このように高田市内でのコミュニティ回復はとても大切だと思います。しかし、高田市内だけではなく、もっとたくさんの地域とのコミュニティも強めていってほしいです。

P11 多様な資源、潜在的な可能性

- 内容が伝わってこなかったなので、もっと具体的に例などを出して説明してほしいです。私たちは、三陸の海で採れる魚介類であったり、波や潮風を利用した発電などが「三陸の海が持つ多様な資源」だと思います。

P53 震災に負けない、がんばる岩手を発信

- 一方的に情報発信するだけではなく、情報交換をして、国内外を問わず、盛んに交流していくことで、岩手をより知ってもらえればと思います。

P13 (1) ア 海岸保全施設の整備

- 3・11と同規模の津波を想定し、「強い」防波堤、防潮堤を作してほしいです。また、常に点検し整備をしっかりとしてほしいです。

ほかにもたくさんの意見が出されました。私たちの意見を今後の復興にぜひ取り入れてほしいです。また、今後も岩手県のために協力させていただきたいと思いますので、そういう機会があれば教えてください。岩手の復興のために、これからも一緒に頑張っていきましょう。